

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの運営理念を見直し、具体的なイメージを持った利用者本位の運営理念を作りあげている。		さらに質の高いホームとなるために、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容になることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼、終礼で唱和して意識づけしている。日々のケアで理念に沿ったサービスができるよう管理者が指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや子供会行事に参加している。また、公民館に加入して地域の人々と触れあう場が多くなるような素地作りをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者及び職員全員で取り組む姿勢がみられる。外部評価の結果を踏まえ職員全体で会議等で話し合い改善に取り組んでいる。		

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催してホームの取り組み状況を報告し、活発な話し合いを行っている。また、地域から出た意見に対し家族会とともに、前向きに取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員(市町村より派遣)の定期的な訪問や行事への参加があり、それをサービス向上に反映できるよう努めている。市町村担当者はホームの状況を把握しており協働関係はできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月新聞を発行して利用者の暮らしぶりなど伝えている。面会時や電話で随時暮らしぶりやエピソードを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のアンケート調査を実施している。重要事項説明書に外部の苦情窓口を明記し、家族会の折にも紹介している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動については最小限度にとどめる努力がされているが、引き継ぎの期間を設けるなどスムーズに移行できる体制ができていない。	○	利用者や家族へ交代のダメージを軽減するために、引き継ぎ期間を設ける等スムーズに移行できる体制づくりを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を全職員を対象に設けている。また、受講者はその報告を会議の場で行い研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会には加入しているが、勉強会等の活動はしていない。	○	同業者間で地域のネットワークづくりをし、勉強会等の活動を通じて、サービスの質の向上への取り組みをされること望みたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は24時間タイムスタディ（最適な方法を研究するもの）を記録し状況を観察したり、家族の訪問を促すなど早くなじめる努力をしている。		安心して納得したうえでサービスが利用できるよう、体験入居、見学、また、家を訪問してなじみの関係をつくるなど、工夫されることを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員がよく利用者と会話しており、互いの感情を共有し、和やかな生活が築かれている。昔の知恵やしきたりなど利用者がよく話しており、職員は耳を傾けている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で一人ひとりの意向や希望を把握することに努めている。日々の活動は朝のお茶の時間に希望を聞いて決めている。また、個々の希望も家族と相談しながら、前向きに取り組む姿勢がある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からは日ごろの関わりの中で意見を聞き、アセスメントを含め関係職員で話し合いそれぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しを実施している。また、状況に応じ医師や家族と話し合って見直し、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ法人の医療機関と連携した“物忘れ外来”の取り組みをしている。歯科や物忘れ外来の経過観察については、医療機関から往診の体制等の取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の意向を確認してグループ法人の医療機関を掛かりつけ医として利用し、信頼関係が構築されている。また、他の医療機関への受診についても支援する体制はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族・利用者とは話し合い、方針を共有している。本人の状況について、随時医療機関から家族へ説明し、家族と話し合う機会を設けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱い等はよく留意され、プライバシーが損なわれない対応がされている。1か所のトイレの扉の開閉が重いとの理由で、扉が開けられたままになっており、プライバシーの確保が損なわれている。	○	開閉が困難な扉について、放置するのではなくプライバシーが確保される工夫を望みたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶の時間など日常の中で一人ひとりの希望や意向を聞き、それに沿った支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や調理は母体法人の施設で行われているが、食卓の準備や後片づけを利用者と職員が行っている。頂き物の野菜等を使った漬け物作りや、おやつ作りは利用者が中心になり取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間帯に毎日入浴を支援している。		より質の高いサービスの提供のため利用者一人ひとりの希望に沿って朝や夜などいつでも入浴を提供できる体制作りを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片づけ、洗濯物たたみ、掃除、配膳等一人ひとりの力が発揮できるよう支援している。自主的に活動できる体制ができている。また、季節にあったおやつ作りなど利用者の得意な面が発揮できる場面をつくるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩の時間を設け、戸外に出かけている。また、家庭的な雰囲気味わうため、利用者家族の協力を得て、定期的に数名で訪問する取り組みが行われている。近隣の公園等に季節の花を見に行くなど積極的な取り組みがされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の不安定な状況のためではあるが、日中玄関等戸外に通じるドア全てに鍵をかけることが常態化している。また、鍵を掛けることを厳守する張り紙がはられている。	○	鍵を掛けることを常態化するのではなく、一人ひとりの癖や傾向を把握することで鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫を重ねることを望みたい。

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いろいろな場面を想定した避難訓練を実施しており、職員が避難経路や処置を周知している。また、地域の人々の協力が得られるよう日ごろからの働きかけもしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェックし記録している。一人ひとりの状態に併せた調理を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に続く居間には利用者がいつでもくつろげるようソファが置かれている。花や飾り物で季節や昔を感じられる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの居室は居心地よく暮らせる工夫がされていたが、利用者の状況から、なじみのものや生活の用品等何も無く殺風景に感じられる居室がみられた。	○	その人らしい居心地のよい居室になるよう家族とも相談しながらさらに工夫されることを望みたい。

※  は、重点項目。